教育研究業績概要

r. 万 ˈ		教育研究	光莱績	耽 要 ————————————————————————————————————			
氏 名 廣森 洋平			,	()		
研 究 分 野					学会等の名称		
分子毒性学			日本薬学	学会、日本毒性学会、日	本免疫毒性学会、日本微量元素学会		
担当授業科目名 衛生薬学実習、薬学特別演 薬学演習 I ・II	[習 [・]	I、衛生討	験法各諸	論、医薬品・食品安全	学、衛生化学、薬学総合演習、医療		
教 育 上 の	能力	りに関	する	事 項			
事項		年			概 要		
1 教育の実践例、教育に関する評価等	2020年	E —			面での実験実習が困難となった状況に対応 のための動画資料、画像資料を作成した		
2 作成した教科書, 教材, 指導書等							
新生化学系実習書	2011 年	2015 年	衛生化	衛生化学系実習書の改訂 (共著、金城学院大学)			
衛生薬学実習 I・Ⅱ 実習書	2017年-現在			衛生薬学実習 I・II 実習書(共著、項目: ビタミン C、発色剤の測定 硬度の改訂)			
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・ 講師等							
 職務上の実績(学	」 術団体や	や社会等に	 こおける混	活動)に関する事項			
事項		年			概 要		
1 資格,免許,特許,受賞等							
資格							
薬剤師免許	2007年						
受賞							
Young Scientist Award	2011 年		The 5	The 5th International Conference on Metals and Genetics			
2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務							
経験等	2014-2	015 年	ファノ	ファルマシアトピックス小委員			
	 '	<u> </u>	 - る 事				
著書名、報告書名等	, 11 (単・共	発行年	発行所等の名称	著者名・ページ数等		
ABA, MUBAT		著の別	7611	70 11 101 44 x >> 11 41.	Tana V MA		
(著書)		L - 74					
•							
•							
(報告書等)							
. PPARγを介した有機スズ化合物の毒性発 に関する研究	現機構	単著	2012	金城学院大学	文部科学省・科学研究費補助金 (2010-2011 年度)		
					(若手研究(B)) 研究成果報告書		
. 環境化学物質がもたらす胸腺加齢化促進	作用お	単著	2016	金城学院大学	文部科学省・科学研究費補助金		
よび免疫機能加齢化促進の影響					(2013-2015 年度)		
					(若手研究(B)) 研究成果報告書		
. 巻貝類において発現する核内受容体の機		単著	2018	鈴鹿医療科学大学	文部科学省・科学研究費補助金		
および環境化学物質に対する応答性評価					(2015-2017 年度)		
					(基盤研究(C)) 研究成果報告書		
. 核内受容体に着目した有機スズ化合物の ボ付着防止作用メカニズムの解明	フジツ	単著	2021	鈴鹿医療科学大学	文部科学省・科学研究費補助金 (2018-2020 年度) (基盤研究(C)) 研究成果報告書		
		ĺ	i	1	İ		

	学術論文 学会発表等の題名	発表者名	発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等
	华術論文)		
1.	A mollusk retinoic acid receptor (RAR) ortholog sheds light on the evolution of ligand binding.	Gutierrez-Mazariegos J, Nadendla EK, <u>Hiromori Y</u> , 他 11 名(8番目)	Endocrinology, 155, 4275-4286, 2014
2.	Structural basis for PPARy transactivation by endocrine-disrupting organotin compounds.	Harada S, <u>Hiromori Y</u> , Nakamura S, Kawahara K, 他11名	Sci. Rep., 5, 8520, 2015.
3.	Structure-Dependent Activity of Phthalate Esters and Phthalate Monoesters Binding to Human Constitutive Androstane Receptor.	Zhang H, Zhang Z, Nakanishi T, Wan Y, <u>Hiromori Y</u> ,他2名	Chem. Res. Toxicol., 28, 1196-1204, 2015.
4.	Transactivation of the human retinoid X receptor by organotins: use of site-directed mutagenesis to identify critical amino acid residues for organotin-induced transactivation.	Hiromori Y, Aoki A, Nishikawa J, Nagase H, Nakanishi T	Metallomics, 7, 1180-1188, 2015.
5.	Organotin compounds cause structure-dependent induction of progesterone in human choriocarcinoma Jar cells.	Hiromori Y, Yui H, Nishikawa JI, Nagase H, Nakanishi T	J. Steroid Biochem. Mol. Biol., 155 (Pt B), 190-198, 2016.
6.	Germline recombination in a novel Cre transgenic line, Prl3b1-Cre mouse.	Al-Soudy AS, Nakanishi T, , <u>Hiromori Y</u> , 他 12 名(12 番目)	Genesis., 54, 389-397. 2016
7.	Ligand Activity of Group 15 Compounds Possessing Triphenyl Substituent for the RXR and PPAR γ Nuclear Receptors.	<u>Hiromori Y</u> , Ido A, Aoki A, Kimura T, 他4名	Biol. Pharm. Bull., 39, 1596-1603, 2016.
8.	Fluorene-9-bisphenol is anti-oestrogenic and may cause adverse pregnancy outcomes in mice.	Zhang Z, Hu Y, <u>Hiromori Y</u> , 他7名(12番目)	Nat. Commun., 8:14585, 2017
9.	Activation of Peroxisome Proliferator-Activated Receptor Gamma and Disruption of Progesterone Synthesis of 2-Ethylhexyl Diphenyl Phosphate in Human Placental Choriocarcinoma Cells: Comparison with Triphenyl Phosphate.	Hu W, Gao F, Zhang H, <u>Hiromori</u> Y, 他13名(9番目)	Environ. Sci. Technol., 51, 4061-4068, 2017
10.	Occurrence of fibrates and their metabolites in source and drinking water in Shanghai and Zhejiang, China	Ido A, <u>Hiromori Y</u> , Meng L, Usuda H, 他3名	Sci. Rep., 7, 45931, 2017
11.	Utility of murine dendritic cell line DC2. 4 for in vitro assay of skin-sensitization potential.	Shiraishi E, Ido A, <u>Hiromori Y</u> , Tanaka K, 他3名	Fundam. Toxicol. Sci. 4, 121-126. 2017
12.	Potential Interference of Oil Vehicles on Genital Tubercle Development during the Fetal Period in ICR Mice	Nishioka Y, Tamai K, Onda M, <u>Hiromori Y</u> , 他4名	Biol. Pharm. Bull. 41, 266-271. 2018
13.	Evolutionary Exploitation of Vertebrate Peroxisome Proliferator-Activated Receptor γ by Organotins.	Capitão AMF, Lopes-Marques MS, Ishii Y, <u>Hiromori Y</u> , 他 9 名	Environ. Sci. Technol., 52, 13951-13959. 2018
14.	An Orthologue of the Retinoic Acid Receptor (RAR) Is Present in the Ecdysozoa Phylum Priapulida.	Fonseca ESS, <u>Hiromori Y</u> , Kaite Y,他5名	Genes (Basel), 10, 985. doi: 10.3390/genes10120985.
15.	$\begin{tabular}{lll} In & $vivo$ & profiling & of & 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin-induced & estrogenic/anti-estrogenic & effects & in female & estrogen-responsive reporter transgenic mice. \end{tabular}$	Yoshida I, Ishida K, Yoshikawa H, Kitamura S, <u>Hiromori Y</u> , 他 7名	J. Hazard. Mater., 385, 121526. doi: 10.1016/j. jhazmat. 2019. 121526.

16.	Screening of House Dust from Chinese Homes for Chemicals with Liver X Receptors Binding Activities and Characterization of Atherosclerotic Activity Using an <i>in Vitro</i> Macrophage Cell Line and ApoE ^{-/-} Mice.	Hu W, Jia Y, Kang Q, Peng H, Ma H, Zhang S, <u>Hiromori Y</u> ,他7名	Environ. Health Perspect., 127, 117003. doi: 10.1289/EHP5039.
17.	Tri-substituted organotin compounds, but not retinoic acid, are potent ligands of complement component 8 $\gamma.$	Yamamoto K, <u>Hiromori Y</u> , Matsumaru D, 他6名	J. Toxicol. Sci., 45, 581-587. doi: 10.2131/jts.45.581.
18.	An ancestral nuclear receptor couple, PPAR-RXR, is exploited by organotins. $ \\$	Capitão AMF, Lopes-Marques M, Hiromori Y, 他7名(5番目)	Sci. Total Environ., 797, 149044. doi:10.1016/j.scitotenv.2021.1490 44.
19.	Alginate-coated activated charcoal enhances fecal excretion of $2,3,7,8$ -tetrachlorodibenzo-p-dioxin in mice, with fewer side effects than uncoated one.	Dungkokkruad P, Tomita S, Hiromori Y, 他6名	J. Toxicol. Sci., 46, 379-389. doi: 10.2131/jts.46.379.
20.	Discovery of contaminants with antagonistic activity against retinoic acid receptor in house dust.	Jia Y, Zhang H, <u>Hiromori Y</u> ,他 8名(8番目)	J. Hazard. Mater., 426, 127847. doi: 10.1016/j. jhazmat. 2021. 127847.
21.	Evaluation of the Skin-Sensitizing Potential of Brazilian Green Propolis. 他 4 件	Shiraishi E, Ishida K, <u>Hiromori</u> Y,他4名(5番目)	Int. J. Mol. Sci., 22, 13538. doi: 10.3390/ijms222413538.
(当	全会発表等)		
国夕		Hiromori Y, Nishikawa J, Nagase	The 5th International Conference on
1.	Structure-activity studies on the RXR agonist activity of organotins	H, Nakanishi T.	Metals and Genetics, Kobe, Japan, 2011
	他1件		
国内			
1.	酵母 two-hybrid 法を用いたヒトおよびマウス PXR アゴニスト 活性評価系の構築	桑山隼、 <u>廣森洋平</u> 、西川淳一、中 西剛、永瀬久光	フォーラム 2013: 衛生薬学・環境トキ シコロジー、福岡、2013
2.	付着生物の核内受容体と有機スズ化合物の防汚作用との関係に 関する研究	中西 剛、 <u>廣森洋平</u> 、原田秀作、 他 4 名	日本マリンエンジニアリング学会 (JIME) 海洋環境研究委員会第3回ワ ークショップ「船底塗料と海洋環境に 関する最新の話題」、神戸、2013
3.	酵母 two-hybrid 法を用いたヒトおよびマウス PXR アゴニスト 活性評価系の構築	桑山隼、 <u>廣森洋平</u> 、西川淳一、中 西剛、永瀬久光	第41回 日本毒性学会学術年会、神戸、 2014
4.	トリフェニルスズの全身免疫系に対する加齢化促進作用の検討	<u>廣森洋平</u> 、酒井紀行、小林亮、上 代大地、中西剛、永瀬久光	第 21 回日本免疫毒性学会学術年会、 徳島、2014
5.	有機スズ化合物とヒト PPARyの結合様式の解明	中西 剛、 <u>廣森洋平</u> 、原田秀作、 他 4 名	第 26 回日本微量元素学会学術集会、 札幌、2015
6.	ヒト胎盤における有機スズ化合物のプロゲステロン産生への影響	<u>廣森洋平</u> 、由井洋樹、中西剛、永 瀬久光	第 61 回日本薬学会東海支部 総会・大会、名古屋、2015
7.	X 線結晶構造解析による有機スズ化合物とヒト PPARyの結合様式の解明	<u>廣森洋平</u> 、原田秀作、中村昇太、 吉田卓也、西川淳一、中西剛	メタルバイオサイエンス研究会 2015、 名古屋、2015

8.	有機スズ化合物およびレチノイドの RXR 転写活性化における必須アミノ酸部位の検討、	<u>廣森洋平</u> 、青木明、西川淳一、中西剛、永瀬久光	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本 薬学会東海支部 合同学術大会 2015、 名古屋、2015
9.	フタル酸ジエチルヘキシル (DEHP) 経口曝露が免疫組織に及ぼす 影響	<u>廣森洋平</u> 、竹内優一郎、永瀬久光、 中西剛	第 43 回日本毒性学会学術年会、名古屋、2016
10.	胎盤内分泌系機能に対するプロポリスの影響およびその分子機 構に関する検討	荒川脩平、 <u>廣森洋平</u> 、安田賢人、 中西 剛、永瀬久光	フォーラム 2016: 衛生薬学・環境トキ シコロジー、東京、2016
11.	ムラサキイガイ retinoid X receptor の同定と性状解析	秋元 凌、 <u>廣森洋平</u> 、中西 剛、永 瀬久光	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本 薬学会東海支部合同学術大会 2016、岐 阜、2016
12.	胎盤内分泌系機能に対するプロポリスの影響およびその分子機 構に関する検討	荒川脩平、 <u>廣森洋平</u> 、安田賢人、 中西 剛、永瀬久光	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本 薬学会東海支部合同学術大会 2016、岐 阜、2016
13.	胎盤内分泌系機能に対するプロポリスの影響およびその分子機 構に関する検討	荒川脩平、 <u>廣森洋平</u> 、安田賢人、 井戸章子、中西 剛	第 7 回岐阜薬科大学機能性健康食品 (蜂産品)研究講演会、岐阜、2016
14.	中国における飲料水中フィブラート系薬物およびその代謝物の 存在実態調査	井戸章子、 <u>廣森洋平</u> 、Meng LIPING、他5名	日本薬学会第136年会、仙台、2017
15.	ムラサキイガイ Retinoid X receptorの同定と性状解析	宮城隆之、秋元 凌、 <u>廣森洋平</u> 、 中西 剛、他 1 名	第 44 回日本毒性学会学術年会、横浜、 2017
16.	有機リン系難燃剤の PPAR を介したヒト胎盤プロゲステロン産 生促進作用	廣森洋平	衛生薬学・環境トキシコロジー第4回 フォーラム 2017 若手研究者の会、仙 台、2017
17.	ムラサキイガイ(Mytilus galloprovincialis) RXR(retinoid X receptor)の同定及び性状解析、	宮城隆之、秋元 凌、 <u>廣森洋平</u> 、 中西 剛、他1名	フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキ シコロジー、仙台、2017
18.	ムラサキイガイ(Mytilus galloprovincialis) retinoid X receptorの有機スズ化合物応答性に関する検討	宮城隆之、秋元 凌、 <u>廣森洋平</u> 、 中西 剛、他1名	メタルバイオサイエンス研究会 2017、 岡山、2017
19.	プロポリス成分の核内受容体を介した胎盤内分泌機能修飾に関する検討	荒川脩平、 <u>廣森洋平</u> 、安田賢人、 井戸章子、他2名	第8回岐阜薬科大学機能性健康食品研 究講演会、岐阜、2017
20.	有機リン系難燃剤の PPARγを介したヒト胎盤プロゲステロン産 生促進作用	<u>廣森洋平</u> 、Wenxin Hu、Fumei Gao、 Hong Zhang、他 5名	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本 薬学会東海支部 合同学術大会 2017、 鈴鹿、2017
21.	有機リン系難燃剤のヒト胎盤の内分泌機能に対する影響	<u>廣森洋平</u> 、Wenxin Hu、Fumei Gao、 Hong Zhang、他 5名	日本薬学会第 138 年会、2018、金沢
22.	有機リン系難燃剤のヒト胎盤の内分泌機能に対する影響	<u>廣森洋平</u> 、Wenxin Hu、Fumei Gao、 Hong Zhang、他 5名	第 45 回日本毒性学会学術年会、2018、 大阪
		1	i .

24.	軟骨魚類ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 (PPAR) の同定とその性状解析	石井陽一郎、 <u>廣森洋平</u> 、宮城隆之、 他3名	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本 薬学会東海支部 合同学術大会 2018、 2018、静岡
25.	軟骨魚類ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 (PPAR) の有機	石井陽一郎、 <u>廣森洋平</u> 、宮城隆之、	メタルバイオサイエンス研究会
9.6	スズ類応答性の検討 ムラサキイガイ(<i>Mytilis galloprovincialis</i>) Retinoid X	他3名	2018 、2018、仙台 日本薬学会第 139 年会、2019、千葉
20.	エフリヤイガイ(Mytills galloprovincialls) Retinoid X receptor の発現部位同定および有機スズ応答性の解析	宮城隆之、 <u>廣森洋平、</u> 秋元凌、他 2名	日本架子云帛 159 平云、2019、丁桌
27.	エラヒキムシ(Priapulus caudatus) レチノイン酸受容体(RAR) の性状解析	<u>廣森洋平、</u> Elza Fonseca、買手康文、他 6 名	日本薬学会第 140 年会、2020、京都
28.	軟骨魚類 Leucoraja erinacea におけるペルオキシソーム増殖因 子活性化受容体(PPAR)に対する有機スズ化合物の応答性評価	<u>廣森洋平</u> 、石井陽一郎、宮城隆之、 他4名	第 47 回日本毒性学会学術年会、2020、 Web 開催
29.	海生無脊椎動物エラヒキムシ(Priapulus caudatus)において発現するレチノイン酸受容体(RAR)の性状解析	廣森洋平、Elza Fonseca、買手康文、他 6名	フォーラム 2020 衛生薬学・環境トキ シコロジー、2020、Web 開催
30.	水生脊椎動物 PPARyの有機スズ類応答性に関する検討 他 38 件	<u>廣森洋平</u> 、Ana MF. Capitão、 Mónica S.、他 14名	メタルバイオサイエンス研究会 2021、 2021、Web 開催
招待	弄講演		
1.	核内受容体を介した有機スズ化合物の毒性	<u>廣森洋平</u> 、中西剛、永瀬久光	メタルバイオサイエンス研究会 2013、 静岡、2013
2.	核内受容体を介した有機スズ化合物の毒性	廣森洋平、中西剛、永瀬久光	第41回 日本毒性学会学術年会、神戸、 2014
` -	での他)	度太光式	7-1-27 40 (0) 0010
	線照射による皮膚障害は、高脂肪食摂取によって増悪する(トピス 環境衛生)	廣森洋平	ファルマシア, 46 (6), 2010